

H27年産1番牧草サイレージの品質

今月は、昨年の気象と収穫状況を振り返り、牧草成分の追跡調査、サイレージ分析値からH27年産1番牧草サイレージの傾向を解説します。

出穂始は平年より6日早まった

6月に低温があったものの、生育期間の気温は高めで日照は多く、生育ステージが早まりました。収穫は平年より3日早くスタートしました(表)。

	萌芽期	出穂始	出穂期
H27	4/29	6/12	6/17
平年	4/22	6/18	6/22

	収穫始	収穫期	収穫終
H27	6/21	6/29	7/9
平年	6/24	6/29	7/10

表 弟子屈町における H27 年の牧草生育(上)と収穫状況(下)

6月20日以降に収穫された牧草は栄養価が低い傾向

図1は、チモシー生育期間の分析値です。生育が早まったことで、6月20日には栄養成分が目標値を下回りました。また、降雨の影響で牧草水分が高い傾向がありました。

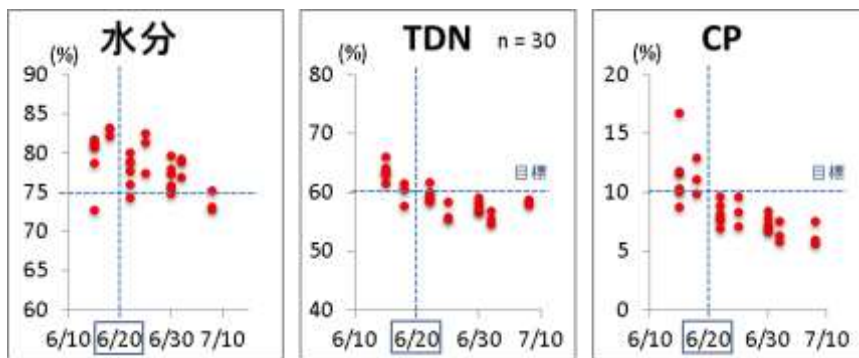
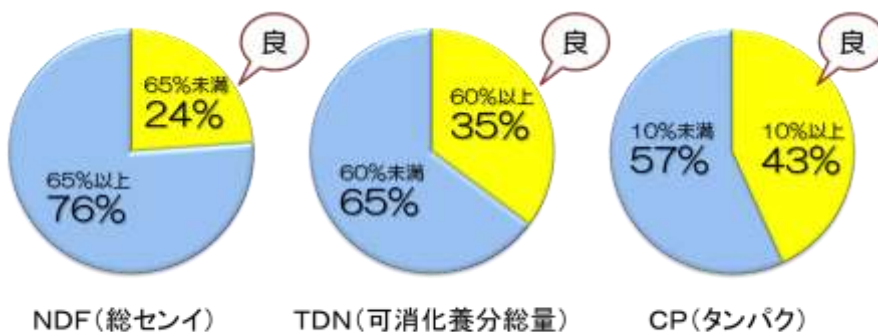


図1 チモシーの栄養成分の推移 (H27年普及センター調べ)

サイレージの分析結果も栄養価はやや低い傾向

図2は、地域内で分析した細切サイレージ(88点)の内、良質な成分値を示した割合のグラフです。TDNが低く、セニ含量が高いサイレージが多い傾向となっています。



※各栄養成分の良質とした目標数値は暫定値

図2 良質な栄養価のサイレージ割合

H27年産サイレージを給与する際の注意点

○まずは粗飼料を分析してみましょう。

牧草水分が高い場合、酪酸発酵している可能性がありま

○CPやTDNが低い傾向があります。

乳量の低下が予想されますが、むやみに濃厚飼料を増やすと、アシドーシスの原因に。飼料給与のメニューや、給与回数を工夫し、ルーメンの安定化を図りましょう。

○セニ含量が高いため、乾物摂取量の低下の心配があります。

ラップ利用農家の方は、切断給与などの工夫を考えましょう。また消化性の高い繊維質やエネルギー飼料の増給を検討します。

(例) ビートパルプの増給、大麦や圧ペンコーンの増給他